

認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業における
令和3年度終了課題の事後評価結果について

令和4年10月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シーズ開発・研究基盤事業部 拠点研究事業課

「認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業」における令和3年度終了課題の事後評価結果を公表します。

1. 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業の運営の改善に資することを目的とします。認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面審査及びヒアリング審査による事後評価を実施しました。

2. 事後評価対象課題

研究開発課題名：安静時脳波により超早期認知症を検知・識別する人工知能の開発と
検証

研究開発代表者：池田 学

研究開発機関名・役職：大阪大学大学院医学系研究科・教授

評価コメント：本研究では、高い精度でMCI患者を分類し脳波を計測する認知症コホートを形成し、これに深層学習を適用することで、安静時脳波から超早期認知症を検知・識別する人工知能を開発することを目的とした。多施設での認知症コホートを形成し、脳波データの機械学習による軽度認知障害(MCI)判別・妥当性検証がほぼ計画通り進捗したのとして評価された。

3. 課題評価委員会

書面審査： 令和4年7月20日～7月27日

ヒアリング審査： 令和4年8月19日

4. 課題評価委員（◎：評価委員長、○：副委員長）

秋下	雅弘	東京大学大学院医学系研究科教授
池淵	恵美	帝京平成大学臨床心理学研究科教授
大町	佳永	国立精神・神経医療研究センター病院医長
小川	敬之	京都橘大学健康科学部作業療法学科教授
繁田	雅弘	東京慈恵会医科大学精神医学講座教授
玉腰	暁子	北海道大学公衆衛生学分野教授
○中島	健二	国立病院機構松江医療センター名誉院長、鳥取大学名誉教授
堀田	聡子	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授
◎本間	昭	お多福もの忘れクリニック院長
本間	一弘	産業技術総合研究所名誉リサーチャー

（敬称略）

5. 評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上